

包はシステムにより大石雄介が主宰します。

システム要領

1. 俳句、散文とも分量に制限なく、締切りも各人の自由とする。
2. 各人は、自稿を読ませたい相手に送稿する。その際、送稿がシステムによることを明記する。(注参照)
3. 編集・発行権は原稿受取人に属し、集まった原稿から随意に雑誌をつくることができる。その発行、公開等も随意とする。
4. 発行、公開された雑誌の一冊は、出稿者に送本することとする。
5. 発行経費は、発行者の個人負担とする。
6. システムの新しい中間への趣旨徹底は、各人の責任とする。

(注) 送稿の際は下記に統一して下さい。

〈当送稿はシステムによります〉

包20号目次

大石雄介句録(13) / 大石雄介

包
包・ぽお
20号
2002.9.15



立つているが春風邪のまだ咳のなかの子
 背が伸びて春風邪の咳折るごとくす
 浮かんでいる春風邪のまだ咳のなかの子
 春の夜の好きな鯉の川猫の川
 春の夜の鳥と屋の明りは地よりすなり
 柿の紅葉にあらず部屋の中風吹く
 おもちゃかぼちやは頭と尻の同時に有る
 おもちゃかぼちやの黄は乳かいり三月へ
 啓蟄の日の水銀体温計を口にす
 むと冬便つた扇風機のいくろうかな

3/3

2

三極の紅花は水気の巢かな
 解作すすむ春日捨オートバイ
 きんぐさり以て縛りたきもの降るなり
 自転車は大丞のせて春の道
 ふうろそう地に張りついてまだ言わぬ
 春の小屋解く人音より乾いた声
 沈丁花は紅白と思えば眠せり

3/2

3/1

大石雄介句録

12 (414 3/1 1 3/3)

楮丹とて犬の糞ぞしてほそけのど
 春寒の自転車だから木の音す
 枇杷の花が見え鶉には鳴かれています
 春の雨の電柱いっほんいっほん名有れ
 春の雨は街灯と山中のこゝと立てたり
 春の雨冬帽はわかたこのかたち
 春の雨ととつくり蘭をいっしよに置く
 春の雨人間は濡れても閉じるなかれ
 街灯や沈丁は銀のくぐりせ

3/5

4

江戸本に長短ある部屋春塵す
 頬白の頬と子供らの頬さわかし
 軽鴨は石食うことし春の堰
 春の堰からのぼる空気の固まりかな
 春日は遍くて平家の起居かな
 春日遍くて自転車折りたたむ
 春日遍くて腕の痺れにも乗るなり
 春日遍くて女の子噛んでゆけり
 春日遍くて平家の次も平家
 我ら沈丁の蕾に当たるとのかがありぬ

3/4

(2002)

3

朝風呂や小 綏 鶏か玄 関に 来ている
 朝風呂や春の 垢と 共有す
 朝風呂や春官と いうと 拾いぬ
 みがき 裸不に ぱらんこ 三流 垂らしてある
 春畑の どれも 同い 牛糞の 玉かな
 春畑の 牛糞玉は 一つ一つ 置く
 牛糞玉は 春の日 して 磨かるべし
 牛糞玉 透かして 首青きもの なら
 敷碁と くぐると きは 鴨の 如くす

3/8

6

白木蘭の 君ら 蕾は凶器となれ
 春一番 蚕豆の 葉に 人照らすれ
 春一番 あれは 猫である 丞ではない
 春一番 枯草道は 磨かれたり
 春一番 やんご 螢光灯の 隈かな
 春一番 やんご 人声より 笑の 声
 春一番 やんご 體の まへの 青さ
 春一番の あと 棒鏡と たまわる
 春の夜の 部屋に ころがる 音の 数
 朝風呂や 春日とは 天の ことなり

5

3/7

3/6

(2002)

風	日	日	春	春	春	鮫	陸	花	夕
落	か	か	の	の	疾	を	上	花	バ
ち	落	落	疾	海	風	ぶ	部	菲	コ
て	ち	ち	風	は	の	う	の	に	を
黄	て	て	か	風	エ	フ	砂	鼻	を
水	春	春	鷗	強	口	と	場	っ	吹
仙	の	の	と	け	本	見	は	け	う
だ	海	海	赤	れ	焼	送	春	て	春
け	セ	は	く	ば	い	っ	の	空	の
か	ウ	が	照	猫	た	て	近	の	骸
見	ス	ら	ら	の	跡	い	く	道	骨
え	レ	ら	す	声	に	る	か	の	道
る	ス	ら	な	す	出	春	か	ど	の
よ	恋	に	り		た	の	ど	か	ど
	人				レ	川	に	ど	に
	た								
	ち								

3/10

8

ま	黄	春	春	道	十	春	春	春	春
ば	水	菜	の	の	十	の	の	の	の
ら	仙	ま	夜	上	十	手	壺	川	洲
に	の	ば	の	な	十	首	の	密	が
広	蕾	幼	手	る	十	細	一	柑	汚
がる	か	し	首	敷	十	く	個	一	れ
る	雛	箱	細	橋	十	て	か	個	て
か	の	か	く	の	十	失	鳥	か	い
る	蕾	鏡	て	つ	十	いた	の	は	る
道	の	に	たり	め	十	たり	は	と	か
笑	道	な	り	た	十	花	かな	と	ら
い	笑	る		い	十	かな		く	満
声	い			花	十			満	す
	声			かな	十				

3/9

7

(2002)

高 <small>たか</small> 雀 <small>すずめ</small>	鴉 <small>カラス</small> と川 <small>カハ</small> 鴉 <small>カラス</small> 日 <small>ヒ</small> 輪 <small>ワ</small> の輪 <small>ワ</small> とよ <small>よ</small> ぎ <small>ぎ</small> る <small>る</small> なり	花 <small>ハナ</small> の前 <small>ノ</small> の梨 <small>リ</small> 畑 <small>ハタ</small> のま <small>ま</small> だ <small>だ</small> う <small>う</small> 時 <small>トキ</small> 間 <small>カン</small> かな	辛 <small>ツル</small> 夷 <small>ヒ</small> 咲 <small>キ</small> か <small>か</small> 七 <small>ナナ</small> ニ <small>ニ</small> ッ <small>ッ</small> に <small>に</small> 断 <small>キ</small> つ <small>つ</small> た <small>た</small> よ <small>よ</small> う <small>う</small> な <small>な</small> 屋 <small>ヤ</small> 根 <small>ネ</small>	雪 <small>ユキ</small> 柳 <small>ヤナギ</small> の匂 <small>ニホ</small> いと嗅 <small>ニホ</small> いで <small>で</small> か <small>か</small> う <small>う</small> 遠 <small>トホ</small> 出 <small>デ</small> す	雀 <small>スズメ</small> の <small>の</small> よ <small>よ</small> う <small>う</small> な <small>な</small> 声 <small>コエ</small> 出 <small>デ</small> て隣 <small>ナリ</small> 家 <small>カ</small> ニ <small>ニ</small> 歳 <small>トシ</small> の子 <small>コ</small>	狂 <small>キヤウ</small> 牛 <small>ウシ</small> 病 <small>ヤメ</small> 以 <small>モ</small> 栗 <small>クリ</small> 肉 <small>ニク</small> な <small>な</small> し <small>し</small> 花 <small>ハナ</small> 粉 <small>コ</small> 症 <small>シヤウ</small> の子 <small>コ</small>	折 <small>オリ</small> り <small>り</small> た <small>た</small> た <small>た</small> み <small>み</small> 自 <small>ジ</small> 転 <small>テン</small> 車 <small>クルマ</small> ほ <small>ほ</small> と <small>と</small> け <small>け</small> の <small>の</small> ざ <small>ざ</small> 折 <small>オリ</small> り <small>り</small> た <small>た</small> た <small>た</small> む	春 <small>ハル</small> か <small>か</small> 栗 <small>クリ</small> の <small>の</small> 尻 <small>シラ</small> の <small>の</small> 形 <small>カタ</small> の <small>の</small> 面 <small>オモ</small> 積 <small>ツキ</small> かな	終 <small>ハヤシ</small> の <small>の</small> 蘭 <small>ラン</small> を <small>を</small> 洗 <small>シ</small> っ <small>っ</small> て <small>て</small> い <small>い</small> る <small>る</small> 妻 <small>ウメ</small> かな
--	---	--	---	--	--	---	---	--	--

3/12

10

終 <small>ハヤシ</small> の <small>の</small> 蘭 <small>ラン</small> 落 <small>オチ</small> ち <small>ち</small> て <small>て</small> 鳥 <small>トリ</small> の <small>の</small> 如 <small>ごと</small> く <small>く</small> あ <small>あ</small> り <small>り</small>	大 <small>オオ</small> 鶴 <small>トリ</small> の <small>の</small> 白 <small>シロ</small> 替 <small>カ</small> は <small>は</small> 冬 <small>フユ</small> の <small>の</small> 日 <small>ヒ</small> の <small>の</small> 筋 <small>スジ</small> と <small>と</small> せん	養 <small>ヤウ</small> 護 <small>ゴ</small> 学 <small>ガク</small> 校 <small>コウ</small> の <small>の</small> 君 <small>キミ</small> ら <small>ら</small> 鶏 <small>トリ</small> よ <small>よ</small> り <small>り</small> 潜 <small>カズ</small> る <small>る</small> なり	養 <small>ヤウ</small> 護 <small>ゴ</small> 学 <small>ガク</small> 校 <small>コウ</small> き <small>き</small> よ <small>よ</small> う <small>う</small> 明 <small>アカ</small> り <small>り</small> な <small>な</small> し <small>し</small> 岩 <small>イハ</small> 燕 <small>ツバメ</small> 乱 <small>ラン</small> 舞 <small>マシ</small>	春 <small>ハル</small> の <small>の</small> 堰 <small>ヰ</small> は <small>は</small> 養 <small>ヤウ</small> 護 <small>ゴ</small> 学 <small>ガク</small> 校 <small>コウ</small> か <small>か</small> ら <small>ら</small> 栗 <small>クリ</small> こ <small>こ</small> い <small>い</small> る <small>る</small>	青 <small>アヲ</small> 鷺 <small>ササガ</small> が <small>が</small> 斃 <small>シ</small> れ <small>れ</small> て <small>て</small> 水 <small>ミヅ</small> は <small>は</small> 空 <small>カラ</small> 無 <small>ム</small> き <small>き</small> こ <small>こ</small> と	湯 <small>ユ</small> の <small>の</small> こ <small>こ</small> と <small>と</small> く <small>く</small> 三 <small>サン</small> 椀 <small>ワン</small> の <small>の</small> 花 <small>ハナ</small> 呆 <small>バカ</small> け <small>け</small> た <small>た</small> る <small>る</small>	春 <small>ハル</small> 疾 <small>ハヤシ</small> 風 <small>カゼ</small> の <small>の</small> 落 <small>オチ</small> ち <small>ち</small> た <small>た</small> 夜 <small>ヨ</small> の <small>の</small> 火 <small>ヒ</small> 星 <small>ホシ</small> かな	大 <small>オオ</small> 学 <small>ガク</small> 酒 <small>サケ</small> 蔵 <small>クラ</small> は <small>は</small> 春 <small>ハル</small> お <small>お</small> し <small>し</small> つ <small>つ</small> け <small>け</small> に <small>に</small> 遭 <small>ア</small> い <small>い</small> し <small>し</small> と <small>と</small> こ <small>こ</small> ら	辛 <small>ツル</small> 夷 <small>ヒ</small> の <small>の</small> 匂 <small>ニホ</small> い <small>い</small> に <small>に</small> ひ <small>ひ</small> ま <small>ま</small> ず <small>ず</small> り <small>り</small> ま <small>ま</small> わ <small>わ</small> さ <small>さ</small> れ <small>れ</small> て <small>て</small> 栗 <small>クリ</small> た <small>た</small> る <small>る</small>
---	---	--	---	--	--	--	---	--	--

3/11

9

(2002)

梨畑の春の枝やが茎のこくと	一人では持てぬ白木蘭の固まりかな	人ひとりに乗せたい白木蘭かな	白木蘭と今朝はセウス見せあつた	青鷺の幼鳥といこ子だらかな	終の蘭と書いて終の蘭となさん	氷頭に坐りまが焼酎と射つなり	春の雨戸を開けるここが真中なり	膝の傷は日に当てること蒿雀とばすこと	膝の傷の蒿雀は巢に潜ったか
---------------	------------------	----------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------	--------------------	---------------

3/13

12

外からあける雨戸が春の珠玉かな	冬越えた息蜘蛛かいる朦朧とす	次男がでていく終の蘭は指やが置く	青鷺よく見れば白い子黄いらい子	からすのえんどうの花の空気が混じる子	鶺鴒を見ていると思うかたかもしれぬ	春の日の氷頭一頭の前にあり	春の雨戸春の戸袋かシジヌ河	春畑やラジオかけっほなし行きっほなし	からすのえんどうと川面が流れてなごぬ子
-----------------	----------------	------------------	-----------------	--------------------	-------------------	---------------	---------------	--------------------	---------------------

11

(2002)

花粉症に中学校陸上部が驚かれ
 葎の芽のかたまりと時のかたまりと
 遅れてきた酸草の花茎天気と弾ぬ
 春の洲の幼童額に目ざし打ち
 大毛蓼の有った記憶と眼前木槿
 陸上部が怪我する椿の山ときかな
 イスタシガイル不明外は春の疾風
 春の疾風はおしつけ一頭と悼む疾風
 空雀上る白い嘴から上る
 雉はあそばさぬの空と風の原

3/15

14

春の堰は鶺鴒か滑るほど平らなり
 春畑や培ってある青い首のとのら
 人と過がる白木蘭満開の日日なり
 白木蘭とほくか芝のころら(則)に
 白木蘭か揺れて見えるほどに揺れおし
 冬風はかたちの子子に春の畑
 萩間打つ大鴉かな春の音ほ
 じいと鳴いたは川蟬ならが三人幼童
 三人幼童もしかしたら二人いかるちどり
 アフリカ分劃の山とくも春の梨木畑

3/14

13

春の夜の塩は暗黒とも白鐵とも
 白木蘭は壁に紡ね鳥の羽音
 頬白の頬にときどき地の光
 息しこいとと笹鳴きか来る日なり
 稚いつくしとかいっていった蜘蛛に会いぬ
 蟻の力なき空の色かな
 燕が来るどこかにさがあるらしき日
 春の日やかいっぱりの声に当たりぬ
 高雀の巣は何色ならん枯葦原
 いらんこを引きずっている子初潮らし

16

3/16

春疾風家の壁鏡のこと
 春の夜のカニオハイヤ薄き国となりぬ
 鶉の真似していて鳥になつてゆく子
 春の疾風人間にある雲の気分
 春疾風の街は壁の巢の心とく
 幼童の春のカニオハイヤは檻かな
 春の日やきのうのカニオハイヤ胸につかえ
 明神岳はぼくが寝るとき春の月
 春の夜の河原はかん高い鳥たち
 春の夜の梨棚枝と親尊の肋

15

(2002)

に	自	木	雪	空	男	芽	春	人	性
せ	転	蘭	雀	気	蓬	吹	の	の	器
あ	車	は	の	こ	維	き	洲	中	と
か	で	表	卵	れ	く	は	の	石	化
い	こ	か	に	こ	石	い	の	蚕	す
や	ろ	ら	あ	れ	の	ま	羊	ほ	黒
の	ら	裏	ら	れ	光	る	身	く	犬
空	び	へ	お	れ	浴	明	欠	に	と
気	つ	と	ほ	れ	い	神	け	く	春
の	ロ	舐	く	春	お	岳	ま	る	の
鴉	ツ	める	の	の	り	に	た	よ	帽
の	ユ	る	靴	子		あ	半	鳴	子
巢	リ	な	の	な		る	身	く	か
か	ー		子	り		碧	欠	よ	な
な	と		な			三	け		
	な		り			角			
	ぬ								

3/18

18

春	復	次	次	次	春	人	春	白
日	不	男	男	男	日	は	の	木
濁	足	か	か	か	残	跳	夜	蘭
る	の	出	出	出	酷	ひ	の	の
遠	桜	て	て	て	コ	た	下	ほ
山	ほ	ゆ	ゆ	ゆ	ル	落	ト	く
か	赤	く	く	く	キ	ち	バ	ら
曲	い	軽	紅	雀	ル	て	イ	ほ
っ	蕾	鴨	白	の	キ	い	暴	ろ
て	か	嘴	雑	羽	パ	る	走	ほ
く	な	の	子	銀	倒	春	と	ろ
る		朱	桃	す	し	の	し	に
な		かな	の花		て	堰	て	な
り					恒		河	か
					河		が	な

3/17

17

(2002)

春疾風は君の額から抜ける女
 春の日は残酷な音ひいている女
 春田にて毛を剃るような機械かな
 川が濁ると朝顔のような花畑
 逆蘭を指のようには捨てるかな
 春の洲は流さねてきた如くありぬ
 春の洲の石の艶が日日動く女
 白木蘭のこぢらも向こも幼童なり
 空気を噛む辛夷の花と青衣の人
 辛夷の花が空気を出たり跳ぬたりす

3/21

3/20

20

寝不足の羊蹄の若い人たち
 街の中まで春の塩広かっぺおりぬ
 春の枯葎ほくかいのないの見える女
 寝不足の黄鵪鶉なりころふなり
 ほとけのびたにたに空気が差しくる
 慣れるしかない逆丸と玫瑰の笑かな
 菜の花の茎のまきは引くなよ
 存在の舟がおしつけの頸にありぬ
 橋日に一度はほくと齋場とする女
 小學校道は熱い蜘蛛の子かな

19

3/19

(2002)

さ	春	赤	母	あ	日	春	春	春	雨
く	の	い	さん	そ	常	の	は	の	の
ら	鳩	た	は	こ	の	日	軽	雨	雲
の	肛	き	は	こ	の	を	鴨	は	雀
枝	門	な	春	こ	野	を	の	鴉	か
さ	女	の	の	こ	と	老	の	春	一
く	た	の	雨	こ	は	人	の	の	日
ら	たい	字	中	こ	は	集	上	雨	鳴
の	い	桜	音	こ	は	い	で	は	か
指	子	と	た	こ	は	替	は	キ	ぬ
か	の	交	て	こ	は	の	は	ッ	日
咲	奥	い	て	こ	は	こ	は	ス	だ
く	な	る	て	こ	は	と	な	す	っ
か	り	な	る	こ	は	こ	り	す	た
な	り	り	る	こ	は	す	り	す	た

3/23

道	春	春	春	姉	姉	桜	春	姉	ほ
の	烟	の	の	と	は	の	の	は	と
如	の	野	驟	吹	人	蕾	驟	人	け
く	だ	と	雨	わ	に	も	雨	に	の
な	い	い	の	ん	に	明	の	に	の
か	い	う	た	と	見	日	そ	に	の
れ	い	う	た	し	ら	の	の	に	の
る	い	べ	と	て	れ	む	上	に	の
雪	ぶ	き	い	は	や	し	青	に	の
柳	ぶ	風	う	は	れ	い	空	に	の
が	ス	か	穴	桜	春	ま	の	に	の
あ	ボ	吹	の	の	塵	有	廃	に	の
れ	ン	く	か	蕾	か	る	墟	あ	の
	ほ	な	た	か	く	は	し	る	る
	暮	り	ち	な	も	弾			
	の		か		ね	ね			
	如		な		る	る			
	し								

3/22

春寒き川にぐ入れ鳥を啼す
 辛夷の樹は花傷ませて傷むなり
 雪柳を回らせ回らせて恋うかな
 野と化したヒヤシンス人の足踏むなり
 一日でなまぬさき梨の白花かな
 天日寒き川が犬のかたちして
 君に入つてゆく大根の花かな
 朱に塗った砥石と思ふ春の雨
 空気があり青鷺の襪襦いさがる
 天日の雨道にこらがる光沢二つ

3/26

3/25

24

君とするさくらの花片の声かな
 月光をきれぎれにして桜かな
 桜に咲かれて声奪われて井戸たち
 さくらさくら寝るときはもう立たぬとき
 鶯雀が待つ君の部屋のあたりかな
 獅子咲きの黄水仙一畝がありぬ
 小綬鶏の声とんでいる高さかな
 こんこんと乾いた音すさくらの家
 逃出して焼酎がないで花の家
 一人でする花見焼酎口痺れさせ

3/24

23

わが額打つほどに黄水仙かな
 部屋という部屋いとしくて雨の雲雀
 春の日や原稿用紙と遠う光
 春野なり螢光灯直管が冴え
 鳥羽とりばね大皿や小皿のほとけのざ
 憤りは春白墨の黄を走らせ
 深夜なる春日は我を贅となせよ
 春の日の贅というもののかたちかな
 春野からここに飛んで石と雲雀
 机三本我と刺さんと董を抱く

3/27

26

かどかどは薔薇の蕾の道かな
 雉と鴉が見分けられぬ日だった
 枇杷の子と枇杷の芽別の光かな
 朱塗りのもの道に立てたり春の雨
 向こうか見える火を焚いている春の雨
 葎の芽と青鷺の首が映るよ
 螢光灯直管と春の雨に打たせ
 こごえる犬とたんぽぽの黄だけがいい
 足萎えの犬がたんぽぽの身を噛むよ
 うまくまる雉がツヨリ濁りなり

25

(2002)

こくと倒れておれば玉巻く芭蕉かな
 芍薬の蕾は開くまは咲かぬ
 あけい確花の空しさは鼠に似たり
 春の夕日の穴抱いている明神岳かな
 梨木の蕾の白と紅ふつかる
 沙羅芽吹き部屋の中は見知らぬ穴
 紫蘭にはとどかぬ體ニつありぬ
 見えている沙羅の木のかまきりの巢かな
 周さんのくらやみの芽吹くよ
 白猫のこゝと一窓の向こゝの著我

3/29

28

蒲団という文字をこそ被りたきよ
 並べてくれる性欲とストーブ一個かな
 春の日のいまから帰る丞のかたち
 かきどおしの花に社殿されて日日よ
 たんぽぽと電気炊飯器の虹月と
 不通の実花鼻につけて帰るなり
 燕やかとぶる丞跳ねるこゝとし
 膝ついてかきどおしの花に踏くなり
 電気炊飯器を紫蘭のこゝとく解体す
 信心なき猫とからすのえんどうかな

3/28

27

(2002)

窓に写る四月カレンダーの赤いかたち
春の雨平家の中ほどにも平ら
春の夜の火星のあたり雨の音
雨浴びてすい濡れて枇杷指の笑
周さんの畑の高雀濡れているよ
平家と打つ雨音と枇杷と打つ雨音
野犬首輪と首に噛ませて春の雨
春の星大雨みんなここにあり
大雨の音に乗ってる春休み
雨の夜の子猫と思う眼鏡かな

29

(2002)

30

3/30

引越し来たる隣人は春騒の球體
引越し来たる隣人春の夜とりことりす
春塵おさまって隣人と枇杷の子かな
かさこそとかなふんあるいは春の星
人間も犬も行きどまり春の路地
百鳥の声して夜の勉強部屋
春の月広場の二人は一人らし
春田は水注すと黒い鳥の如し
粥の如し隣家窓という窓の灯
双葉枝拒否の君の玫瑰は咲いたか

老斑我に鯨のりは月と流し
君なくて人語ころがる春の道
君なくて玫瑰とさくららの日日かな

32

登校拒否の一緒に雉になろうか
登校拒否のはるののげしは食べられるよ
おおいぬのふひりは四弁花日の音よ
きつねのぼたんの一茎一花をえり
雉の群ほしむかにしむかに入ってゆく
千葉長樹と笑うニニ六の次の日
明神岳の如しと思う見えざる
きのうから梨の花はなにも吐かぬ
明神岳やなよくさふじに花がついた
春月やもうすくいだから日日躍れよ

31

3/31

(2002)

—— 20号案内 ——
αシステムにより発行は不定

包19号 定価 1,000円
2002年 5月15日 発行
編集発行 / 大石雄介
発行所 / 双弓舎
〒250-0851 小田原市曾比
2793 大石雄介方